

デング熱とは

内科主任部長 上田重彦

デング熱とは、デングウイルスによって起こる熱性疾患で、中東などで流行が確認されています。

日本国内では、今年の8月に発症者が報告されてから9月22日現在で合計142人の感染者が確認されています。感染源となる蚊（ネッタイシマ蚊やヒトスジシマ蚊）は、デングウイルスを保有している者の血液を吸血し、この蚊が非感染者を吸血する際に感染が生じます。ウイルスに感染しても50〜80%の人は無症候性感染ですが、症状を呈する場合は、比較的軽症のデング熱と顕著な血小板減少を伴うデング出血熱に大別されます。



型デングと呼ばれる状態となりますが、適切な治療を行うことで致命率は1割未満です。

デング熱の症状としては、感染から3〜7日の潜伏期間の後に急激な発熱で発症し、発熱・発疹・頭痛・骨関節痛・嘔気・嘔吐などがみられます。皮疹は点状出血、島状に白く抜ける麻疹様紅斑など多彩です。通常は発病後2〜7日で解熱します。血液検査では血小板や白血球が減少し、確定診断には血液からのウイルス分離や遺伝子解析法などが必要であり、感染が疑われる場合には診断に加えて適切な治療が可能な医療機関での診察が必要となります。一部は重症化するとの報告はありますが、1999年から現在までに日本国内で発症したデング熱患者で死亡例の報告はなく、9月22日現時点で重篤な症状を呈する患者は確認されていないことから、必要以上に怖がる必要はないと思います。

デング熱には現時点でワクチンがないため、蚊に刺されないような予防対策をとることが原則です。

火の取り扱いには十分注意しましょう

秋の火災予防運動

磯城消防署予防係 ☎ 33・2461

「もういいかい 火を消すまではまだだよ」を統一標語として、11月9日(日)〜15日(土)に、全国で秋の火災予防運動が実施されます。秋は、空気が乾燥し火災が発生しやすい季節です。火の取り扱いには十分注意し、後始末は確実に行いましょう。

期間中、磯城消防署では、地元消防団や磯城婦人防災クラブ員と合同で、巡回広報や自治会などへの訓練指導を行い、火災予防の啓発を図ります。

町民の皆さんも、もう一度火の恐ろしさを思い起こし、地域や家庭から火事を出さないためにはどうすればよいと考えてみてください。

住宅防火 いのちをまもる

7つのポイント

3つの習慣

- 寝たばこは、絶対やめる。
- ストープは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。
- 4つの対策
- 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。

- 寝具や衣類、カーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用する。
- 火災を小さいうちに消すために、住宅用火災警報器などを設置する。
- お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。

付けて良かった！

住宅用火災警報器！！
住宅用火災警報器により、助かった事例はたくさんあります。

一日も早く、住宅用火災警報器を設置しましょう。

事例紹介

- ベッドで就寝中、布団が落下して蚊取り線香に接触し出火。住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、布団を台所の流しに持って行き消火した。
- 自宅2階で使っていた古い扇風機が発熱して出火。1階にいた家族が住宅用火災警報器の警報音に気付き、ベランダに置いていた水やり用の水で消火した。

※悪質な訪問販売には注意してください。

※消防署が販売・取り付けをすることはありません。